

【ジョース・パイル(Jaune Paille)】フランス語でJauneは黄色、Pailleは麦わらで、麦わらのような明るい黄色。

フランスの伝統色の麦わら色はゴッホの「麦畑」のような見事な黄色。日本にも麦わら色はあるが、もっとくすんだ麦わら帽子のような赤みを帯びた淡黄色。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和4年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

「地域創造フェスティバル2022」開催のお知らせ/令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集時期について/「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法/令和4年度「地域創造セミナー」スタート/令和4年度「市町村長特別セミナー」報告

今月の情報..... 6

地域通信/アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

東京都国立市 くにたち市民芸術小ホール
くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』

●令和4年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」全体研修会

3年ぶりに対面で開催

令和4年度 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2022年4月18日～20日



公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、実施館の担当者やコーディネーター、登録アーティストが一堂に会する全体研修会を実施しています。コロナ禍で2カ年にわたって通常開催が叶いませんでしたが、今年度は3年ぶりに4月18日～20日まで対面での通常開催が実現しました。

19日にトッパンホールで開催されたアーティストのプレゼンテーションは実施館以外の希望者にも公開され、久しぶりに静かな中にも熱気の伝わる研修会となりました。

●研修ではワークショップも実施

研修初日には地域創造会議室を会場にしたコミュニケーション・ワークショップも対面で行われました。今回講師となったのは、公共ホール現代ダンス活性化事業登録アーティストとしての経験をもつだけでなく、地域のホールでさまざまな取り組みを行っている森下真樹さんです。近年ではベートーヴェンの交響曲『運命』全楽章(楽章毎に別の振付家に振付を委嘱した自らのソロ)、『第九』を踊りにして注目されています。

「2016年に市民が可児交響楽団と踊るといいう市民参加型事業の振付を行ったときに『運命』を使い、9歳から77歳までの市民が踊っているのを見て感動し、自分でも踊ってみたいくなった」という森下さん。こうした経緯を研修参加者に説明するとともに、今回は『第九』を編集した曲を使ったワークショップを行い、簡単な動きから始めて、最後はそれぞれが考えた振りも交えてみんなで踊り切りました。

令和元年度におんかつを実施した富山県氷見市の後藤和泉さんからの事例紹介では、おんかつ実施後の活動にも話を広げ、長期的な視点で事業の位置づけを考え、継続していくことの大切さを伝えました。OBアーティストからの事例紹介では、酒井有彩さん(ピアノ)、糸賀修平さん(テノール)から、「内容をアーティストにすべて任せるのではなく、まずはこの事業を通して誰に何を伝えたいかを教えてほしい。その地域ならではのプログラムをできるのがおんかつの醍醐味」と語られました。

●コロナ禍により登録期間を延長

2020-2021年度登録アーティストは事業の

写真

左上: 森下真樹さんのワークショップ

右上: おんかつの事例紹介(令和元年度・氷見市)

左下: 登録アーティストプレゼンテーション(梅津碧)

右下: 登録アーティストプレゼンテーション(石上真由子)

●2020-2022年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 齊藤一也(ピアノ)
- 石上真由子(ヴァイオリン)
- 梅津碧(ソプラノ)
- 竹多倫子(ソプラノ)
- 新野将之(打楽器)
- 高橋ドレミ&貴川風ピアノデュオ(ピアノデュオ) ※今年度は活動休止

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4064

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

中止・延期などを踏まえ、登録期間を1年延長。今回初めて参加館の担当者の反応を目の当たりにしながらプレゼンテーションを行いました(昨年度はリモート、一昨年は中止)。思うような日常が送れず、夢を口にできない子どもたちに思いを馳せて、アーティストたちは異口同音に自分が演奏家を志した「夢」をキーワードにメッセージを発信していました。

コロナ禍でオンラインの歌唱指導にも挑戦したというトップバッターの竹多倫子さん(ソプラノ)は、幼稚園の頃にたくさんの舞台をみたことが夢のきっかけとなったといい、人生の節目で出会った曲や勇気づけてくれた曲でプログラムを構成。

小学生のときに地元のホールでブーニンの演奏と出会ったことが夢に繋がり、ピアノを弾くことに目覚め、猛練習をして演奏家になったという齊藤一也さん(ピアノ)は、リストの『ラ・カンパネッラ』『愛の夢』でその技量を存分に披露。「僕の体験をみんなに伝え、演奏者としてピアノを目覚めさせて、楽器の魅力をもっと伝えていきたい」と話していました。

梅津碧さん(ソプラノ)は、リアルな観客の前にその力を存分に発揮し、ソプラノの中でも一番高い音を歌うコロラトゥーラの魅力を伝えていました。「大学生のときにオペラを観て頭蓋骨が震えるほどのショックを受け、それから声楽家を志した。どんなことがきっかけになるか、どこにチャンスがあるかわからない。いろんなことにアンテナを張って挑戦してほしい」と言い、その気持ちに一番ぴったりだという中島みゆきの『糸』を熱唱しました。

物語を話しながら演奏するミュージックシアターの活動もしている新野将之さん(打楽器)は、「打楽器の魅力、音を出すことの楽しさを共有したい」と言い、バケツにガムテープを貼っただけの身近な材料を使った大太鼓を演奏し、紙コップなどでつくった小鳥やカエルの鳴き声のする音具を観客に配って合奏。

子どもの頃からヴァイオリンが好きで、医者になることを夢見て医学部に進んだという石上真由子さん(ヴァイオリン)は「夢はいくつ

もってもいいし、とりあえずやってみてできなかったらやめればいい」とエール。同じく医師の勉強をしていたクライスラーに親近感があるといい、『中国の太鼓』と『美しきロスマリン』の2曲を披露しました。

今年度の事業は秋以降に実施の予定です。コロナの感染状況は予断を許しませんが、感染対策に配慮しながら開催をしていきたいと思っています。詳細は当財団ホームページやレターで発表しますので、ぜひ興味をもっていただければと思います。

- 令和4年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体一覧(全13団体)
- 宮城県角田市
- 福島県白河市
- 茨城県牛久市
- 千葉県木更津市
- 千葉県成田市
- 山梨県甲斐市
- 三重県伊賀市
- 京都府舞鶴市
- 大阪府東大阪市
- 広島県海田町
- 香川県丸亀市
- 長崎県佐世保市
- 大分県宇佐市

● 令和4年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会スケジュール

	4月18日(月) 地域創造 会議室	4月19日(火) 地域創造 会議室/トッパンホール	4月20日(水) 地域創造 会議室
10:00		「おんかつから始まるホールと地域の未来」 大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所)	「グループ別企画検討」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子、赤木舞、仕田佳経
11:00			
12:00			
13:00	オリエンテーション 「ワークショップ」 森下真樹	「フィードバック～これまでのゼミを振り返って～」 「プレゼンテーションの聴き方」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子、赤木舞、仕田佳経	「企画発表」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子、赤木舞、仕田佳経
14:00			「フィードバック」
15:00	「おんかつを知るVol.1～基礎編～」小澤櫻作 「おんかつを知るVol.2～実務編～」地域創造	2020-2022年度登録アーティスト公開プレゼンテーション ●竹多倫子(ソプラノ) ●齊藤一也(ピアノ) ●梅津碧(ソプラノ) ●新野将之(打楽器) ●石上真由子(ヴァイオリン)	事務連絡/閉講式
16:00	「おんかつを知るVol.3～事例紹介編～」 I. 令和元年度事例 後藤和泉(氷見市)、山本若子		
17:00	II. 演奏家事例 酒井有彩、糸賀修平、丹羽徹、花田和加子		
18:00	III. 事業担当者の役割とは 仕田佳経	交流会	
19:00			

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2022」開催のお知らせ

地域創造が取り組んでいる事業を紹介し、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2022」を開催します。コロナ禍により令和2・3年度は中止・縮小開催していましたが、本年度は2日間にわたっ

て行います。地域創造の登録アーティストや、全国各地の公共ホールや自治体の文化担当の方々が多数来場されますので、ネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただけます。ぜひご参加ください。

出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、次号(7月号)でご案内いたします。

●地域創造フェスティバル2022概要

[日程] 7月26日(火)、27日(水)
[会場] 東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)
[プログラム]
●シンポジウム「変化する地域と越境する文化の役割—地域と文化芸術をつなげるコーディネーター—」(令和3年度調査研究事業報告)
●公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション・セミナー
●公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション

●助成要綱・事業に関する説明会
「令和5年度 地域の文化・芸術活動助成事業」
「令和5年度 地域伝統芸能等保存事業」
「令和5・6年度 公立美術館活性化事業」
「令和5年度 リージョナルシアター事業」
「令和5年度 公共ホール邦楽活性化事業」
●情報交換会(※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止または内容を変更する場合がございます)
【同時開催】
都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

●令和4年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集時期について

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊か

なふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。平成16年度から令和3年度までの18年間で133施設が受賞しました。

実施要領・応募書については、5月下旬頃に当財団ホームページに掲載する予定です。ご応募をお待ちしています。

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォーム、研修会/シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了のお知らせメールがお手元へ届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2~3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

●地域創造フェスティバル2022に関する問い合わせ
芸術環境部 三田・矢嶋
Tel. 03-5573-4064

●「地域創造大賞(総務大臣賞)」に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4184
taishou@jafra.or.jp

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」に関する問い合わせ
芸術環境部 人材育成担当
jinzai@jafra.or.jp

●令和4年度「地域創造セミナー」スタート

文化・芸術による創造性豊かな地域づくりと文化芸術関係者の広域的な連携強化のため、地域創造が都道府県主催のセミナーへ講師を派遣する地域創造セミナーがスタートしました。

今年度の第1回は静岡県コンベンションアーツセンターグランシップで、美術家・映像作家・京都美術大学専任講師として多方面でご活躍されている山城大督さんに、「オンラインで展開する文化芸術の企画実践—コロナ禍におけるアートプロデュースの可能性—」というテーマで講演いただきました。

アートプロデュースの開催形式が対面だけでなく、オンライン、ハイブリッド(対面とオンライン同時)に分けられたコロナ禍で山城さんがオンラインで取り組んだユニークな事例を紹介。ロームシアター京都の「プレイ!シアターin2021」ではファミリー対象の参加型イベントを完全なオンラインで実践し、無観客であることを活用して、ホールのみならずエントランスやスタッフルーム等を使用して作品を制作しました。

また、参加者がZoomを活用して、自宅で映像の作成ワークショップに参加できる「YOUR

VIDEO」、参加者同士でZoomを使って交流する「HOME STAY HOME」では参加者それぞれの日常を映像作品にしました。

これらの作品制作を通じて、コロナ禍により全国的にオンライン技術が急激に向上し、それにより新しい表現が生まれ、多くの方へ届けることが可能になったとのこと。さらには専門スタッフの配置により継続したオンライン技術の向上が期待できると提言されました。

今年度の地域創造セミナーは愛知県、広島県、鹿児島県でも開催の予定です。



山城大督さんの講義

●「地域創造セミナー」に関する問い合わせ

芸術環境部 矢嶋・梅村
Tel. 03-5573-4093

●「市町村長特別セミナー」に関する問い合わせ

芸術環境部 田中・森永
Tel. 03-5573-4185

●令和4年度「市町村長特別セミナー」報告

地域創造では、文化・芸術による創造性豊かな地域づくりへの理解を深めていただくため、全国の市町村長を対象とする「市町村長特別セミナー」を実施しています。今年は、4月26日に、千葉市にある市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)との共催でセミナーが開催され、文化・芸術による地域づくりに関する講義とおんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

講義は「アートを地域経営のOSに～BEPPU PROJECTの活動より～」と題し、Yamaide Art Office株式会社代表取締役の山出淳也さんが登壇。

山出さんが、地域の創造的なエンジンとしてアートを活かした課題解決や価値創出を行うBEPPU PROJECTを発足したのは2005年。従来の別府観光は、シニア層・男性団体旅行客がメインとなっていましたが、情報の二次拡散が期待できる若年層・女性個人客に向けて、アートを活かした新たな魅力の創出を目指しました。

市民主体の芸術祭「混浴温泉世界」の企画では、多くのアーティストを別府市に招き、別府市と持続的に関わるファンを増やしま

す。その後、アーティストと“深く”関わることを目指し、グループ展ではなく個展となる「in BEPPU」の毎年開催へと移行します。

プロジェクトを遂行するに当たり、まずビジョンシートを作成し、職員一人ひとりが自分の言葉でビジョンを説明できるようにすることが重要であると山出さんは言います。そして、プロジェクトの達成度を検証し、説得力のある形で周りに示していくことが、プロジェクトの鍵になっていると感じました。

今後も創造性をもった地域経営がますます求められていく中で、地域の“問題提起”を行い、“気づき”を与える触媒であるアートを地域経営に生かす重要性について、理解を深められる講義となりました。

講義に続いて、地域創造おんかつ支援登録アーティストの泉真由さん(フルート)と松田弦さん(クラシック・ギター)のデュオによるミニコンサートが行われました。フルートやギターの音の出し方を紹介しながら、ピアノ曲から管弦楽曲までさまざまな曲をデュオとしてアレンジして披露するとともに、この楽器編成のオリジナル曲でもある武満徹作曲の『海へ』の演奏の際には、参加者に目を閉じ

てどのような風景が想像できるかを考えてもらうアウトリーチ体験を行い、参加者それぞれの感じた「海」を発表しあいました。フルートとクラシック・ギターの優しい音色に癒されながら、正解を求めないアウトリーチの効果を体感できるミニコンサートとなりました。



上:山出淳也さんによる講義/下:泉真由(フルート)×松田弦(クラシック・ギター)のデュオによるミニコンサート

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介します。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2022年8月号情報締切

6月24日(金)

●2022年8月号掲載対象情報

2022年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道洞爺湖町

洞爺湖芸術館

〒049-5802 洞爺湖町洞爺町
96-3

Tel. 0142-87-2525 山本みどり

<http://www.geijutukan.net/>

吉田卓矢展

いきものたちが宿る帆布

北海道蘭越町在住の画家・吉田卓矢による絵画とインスタレーション約30点を展示。自身で展示空間を施工し、「絵が観る人を出迎えたり、観る人がわざわざドアを開けて絵を見にいったり」する仕掛けで作品との「対話」を促す。また、吉田が蘭越町で地域の子どもたちに表現を楽しむ時間を提供しているYoshida Art Schoolの活動について紹介する。吉田のワークショップ「自分で貼った帆布に洞爺湖を描こう」も実施。

[日程]4月23日～6月5日

[会場]洞爺湖芸術館



吉田卓矢「蘭越の楽園」(2022年)

●宮城県気仙沼市

リアス・アーク美術館

〒988-0171 気仙沼市赤岩牧
沢138-5

Tel. 0226-24-1611 岡野志龍

<http://www.riasark.com>

N.E.blood21 Vol.78 吉賀伸展

／Vol.79 千葉幸子展

2002年にスタートした東北・北海道在住の若手作家を個展形式で紹介し、地域の美術活動の活性化や作家活動の土壌づく

り、ネットワーク形成を目指すシリーズで、今回は2つの個展を同時開催。山形県在住で、移住を機に東北の自然をモチーフに据えた制作を行う吉賀伸は陶彫刻の作品、岩手県在住の画家千葉幸子は、気仙沼の風景を描いた新作等を展示する。

[日程]6月1日～7月18日

[会場]リアス・アーク美術館

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ
沢62-46

Tel. 0182-33-8855 木村雅洋

<https://common3.pref.akita.lg.jp/kinbi/>

描かれた気象

四季のはっきりしている国に住む日本人は、気象現象そのものや、雨や雲、雪とともに、ある自然に美しさや風情を感じ、大いに関心を寄せてきた。本展では気象をテーマに、明治時代の山水画、近現代の風景画など、合わせて55点を展示し、作家それぞれの自然観や個性を溶け合わせて描かれた気象の姿を楽しむことができる。

[日程]4月13日～7月3日

[会場]秋田県立近代美術館

●福島県白河市

白河文化交流館コミネス

〒961-0075 白河市会津町1-17
Tel. 0248-23-5300 小松寛

<http://cominess.jp/>

白河市コミネス交響楽団

第1回定期演奏会

2021年6月に発足した、コミネス付属のアマチュアオーケストラ「白河市コミネス交響楽団」の第1回定期演奏会。コミュニケーションを高い次元で取れるオーケストラを目指し、小学5年生以上の団員で構成。第1回公演は、交響楽団の音楽監督である水戸博之指揮、コミネス混声合唱

団賛助出演の下、ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」をメインに据えるプログラムとなっている。

[日程]6月5日

[会場]白河文化交流館コミネス



コミネス交響楽団発足式演奏

関東

●栃木県宇都宮市

栃木県立美術館

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7

Tel. 028-621-3566 鈴木さとみ

<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

題名のない展覧会—栃木県立美術館 50年のキセキ

開館50周年を記念して、過去に開催した240本の企画展や、これまでに収集した約9,000点の作品の中から選りすぐりの収蔵品を通してその歴史をたどる特別展。作品だけでなく、企画展ごとに制作されたポスターを年譜状に並べたものや、学芸員だけが知っている裏話などのコメントをパネル展示しており、多方面からコレクションの魅力を紐解く。

[日程]4月16日～6月26日

[会場]栃木県立美術館

●群馬県高崎市

高崎財団

〒370-0841 高崎市栄町9-1

Tel. 027-321-7300 深澤佳菜

<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/index.php>

高崎芸術劇場 大友直人 Presents

T-Shotシリーズ vol.7

谷昂登ピアノ・リサイタル

大友直人芸術監督による若手演奏家プロジェクト第7弾。「今

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

後の音楽シーンを担う演奏家と出会い、末永く応援してほしい」との思いで2020年にスタート。リサイタルと同時に、高崎芸術劇場の音楽ホールでの演奏をCD・DVD化する。今回は、2021年の日本音楽コンクール第1位を獲得した10代気鋭の若手ピアニスト・谷昂登が、「ラフマニノフ/愛の悲しみ」など全5曲を美しく力強い、鮮やかな音色で披露する。

[日程]6月16日

[会場]高崎芸術劇場

●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5500 関下景子
<https://www.saf.or.jp/arthall/>

コンドルズ埼玉公演2022新作 『Starting Over』

2022年4月に芸術監督に就任した近藤良平率いるコンドルズによる、埼玉新作シリーズ。舞台の奥行や機構をフルに活かしたダイナミックな演出や笑いと遊び心で、子どもから大人まで幅広い世代に愛されている。15作目となる今年のタイトルは、ジョン・レノンのラストシングルから名付けられ、激動する世界で今こそ「やり直そう、新しく始めよう」というコンドルズからの熱いメッセージとなっている。

[日程]6月4日、5日

[会場]彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県市川市

市川市文化振興財団
〒272-0025 市川市大和田1-1-5
Tel. 047-379-5111 菊地俊輔
<https://www.tekona.net/>

リニューアルオープン記念 祝祭管弦楽団スペシャルコンサート

市川市文化会館リニューアル・

オープンを記念して「明るく未来にはばたく」をイメージする祝祭管弦楽団を結成。主要メンバーに日本を代表するオーケストラの首席奏者たちを迎え、そこに市川市文化振興財団新人演奏家コンクール受賞者を中心に選ばれた若き演奏家たちが加わった総勢38名によるオーケストラがリニューアルの“祝祭”に相応しいクラシックの名曲をお贈りする。

[日程]6月11日

[会場]市川市文化会館

●千葉県市原市

市原湖畔美術館
〒290-0554 市原市不入75-1
Tel. 0436-98-1525 富樫菜幸
<https://lsm-ichihara.jp/>

金氏徹平 S.F. (Something Falling/Floating)

文学や演劇など、領域を横断したコラボレーションに取り組んできた金氏徹平による個展。これまでの経験や変容する世界を踏まえて、新たな“彫刻”についてのインスタレーションを展開。その金氏のS.F.ワールドを照明デザイナーの高田政義が演出。市内を巡り収集した使用済みのコンクリートや石など、自然と人為の狭間にある素材や物質をコラージュした新作も発表する。

[日程]4月16日～6月26日

[会場]市原湖畔美術館



展示風景 Photo: Keizo Kioku

●千葉県浦安市

浦安市文化会館
〒279-0004 浦安市猫実1-1-2
Tel. 047-353-1121 増山徳子

<https://www.urayasu-zaidan.or.jp/> 羽ばたけ! 若い音楽家 URAYASU ピュアクラシックコンサート with幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部

浦安に縁のある20歳から35歳の音楽家を支援する事業。今回はオールスペインプログラムで、フラメンコダンサーも登場するポッケリーニの『ファンダンゴ』やファリヤのバレエ音楽『三角帽子』などを演奏。大トリでは、注目のギタリスト・岡本拓也と全国屈指の高校オーケストラとして知られる幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部による『アランフェス協奏曲』が演奏される。

[日程]6月12日

[会場]浦安市文化会館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543 大竹嘉彦
<https://www.setagaya-ldc.net/>

大竹英洋写真展 ノースウッズ 生命を与える大地

三軒茶屋屋敷の写真家・大竹英洋の地元初となる個展。世田谷文学館と生活工房が連携して開催する。大竹は北米大陸に広がる世界最大級の原生林「ノースウッズ」を約20年間取材し、そこに生きる動植物などの豊かな生態系と人との関わりを撮り続けてきた。本展では、ノースウッズで撮影した写真のパネル約40点のほか、現地取材に携行した地図やキャンプ用具なども展示する。



大竹英洋〈子ジカ〉

[日程]6月4日～7月10日
[会場]生活工房ギャラリー

●東京都府中市

府中の森芸術劇場
〒183-0001 府中市浅間町1-2
Tel. 042-335-6210 川添彩香
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/>

フレッシュ名曲コンサート どりーむコンサートVol.121

至高の天才 最後のシンフォニー
開館以来30年以上続いているクラシックコンサート。今シーズンは一人の作曲家に絞ったプログラムで4公演行われる予定。初回は「フレッシュ名曲コンサート」として、モーツァルトのプログラムを、広上淳一指揮の日本フィルハーモニー交響楽団がソリストに小井土文哉を迎えてお贈りする。

[日程]6月11日

[会場]府中の森芸術劇場

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-47-1
Tel. 042-481-7611 渡邊義彦
<https://www.chofumusicfestival.com>

調布国際音楽祭2022

調布のまちを舞台に毎年初夏に行われているクラシックを中心とした音楽の祭典。音楽家・鈴木優人を中心に、手づくりの感覚とクオリティを両立させたラインナップで親しまれている。記念すべき10回目のテーマは、「“BACH” TO THE FUTURE ~未来へつなぐ音楽祭~」。調布にある明治大学付属明治高等学校・中学校の吹奏楽と人気ピアニスト・かていんと共演など、若手演奏家が躍動する一週間。

[日程]6月18日～26日

[会場]調布市グリーンホール、調布市せんがわ劇場ほか

●神奈川県平塚市

平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

Tel. 0463-35-2111 勝山滋

<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html>

市制90周年記念

リアル(写真)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと

近年再びブームとなっている「写真」をテーマとした絵画や彫刻の企画展。幕末前後の精巧な生人形を起点として、西洋由来の技法に限らない広い写実の文脈を紹介しつつ、深堀隆介、秋山泉、本郷真也、満田晴穂など現代の若手作家たちの作品と制作動機に焦点を当てる。それぞれの作家による多彩な写実の表現を通して、現在と過去に通底する感覚や意識を探っていく。

[日程] 4月9日～6月5日

[会場] 平塚市美術館

北陸・中部

●新潟市ほか

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-5615 坂内佳子

<https://www.ryutopia.or.jp/>

Noism×鼓童「鬼」

りゅーとびあ専属舞踊団Noism Company Niigataと、佐渡を拠点に活動する太鼓芸能集団「鼓童」の共演。作曲家・原田敬子が新潟・佐渡でのリサーチを経て描く新曲とともに、新潟発の“新潟をテーマ”にした新作を上演する。また本作は、各地で中核を担う劇場4館(新潟、京都、愛知、鶴岡)が共同製作し、りゅーとびあ公演を皮切りに、全国5都市を巡演する。

[日程・会場] 7月1日～3日:りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館、

7月8日～10日:彩の国さいたま芸術劇場、7月17日:ロームシアター京都、7月23日:愛知県芸術劇場、7月30日:荘銀タクト鶴岡

●岐阜県可児市

可児市文化芸術振興財団

〒509-0203 可児市下恵土3433-139

Tel. 0574-60-3311 小谷猛

<https://www.kpac.or.jp>

新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる オープン・シアター・コンサート

障がい者施設へのアウトリーチに来ていた保護者の「子どもが音楽が好きなので本当は劇場に行きたいが、声が出てしまうので行けない」という声をきっかけに、2015年から始まったバリアフリーコンサート。客席前方エリアの椅子を外してカーペット敷きにした「のびのび鑑賞席」の設置や車椅子席の増設など、障がいのある人や幼児なども安心して楽しめるコンサートとなっている。

[日程] 6月24日

[会場] 可児市文化創造センターala

●静岡市

静岡市民文化会館

〒420-0856 静岡市葵区駿府町2-90

Tel. 054-251-3751 岩科直子

<https://www.scch.shizuoka-city.or.jp/>

ラウドヒル計画『FLASH!～アベハナネヴァーエンド～』

藤枝市出身の勝山康晴(コンドルズ)のプロデュースで、静岡市民文化会館を拠点に、静岡の人々による完全オリジナル舞台作品を継続的に創作発信する長期プロジェクト。2013年から静岡にこだわったテーマで作品を次々と上演しており、今回は2021年10月に初演された作品(脚本:大野裕明、振付・ダンス指導:スズキ拓朗)を再演する。

静岡出身の出演者・スタッフに加え、静岡在住障がい者ダンスチームも参加し、演劇やダンス、映像をミックスさせた作品をつくり上げる。

[日程] 7月2日、3日

[会場] 静岡市民文化会館



『FLASH!～アベハナネヴァーエンド～』初演(2021年10月)

●浜松市

浜松市鴨江アートセンター

〒432-8024 浜松市中区鴨江町1番地

Tel. 053-458-5360 澤柳美千子

<https://kamoeartcenter.org/>

浜松市鴨江アートセンターアーティスト・イン・レジデンス展

2014-2021 HERE AND NOW

アーティスト・イン・レジデンス事業をスタートして9年目を迎え、これまで浜松市で滞在制作を行った延べ63組のアーティストのうち、出展を希望する40組の作品が一堂に会する。参加アーティストは若手からベテランまで、またジャンルも作品の形態もさまざまで、アーティストを迎えてのトークなども予定している。

[日程] 6月3日～26日

[会場] 浜松市鴨江アートセンター

●愛知県岡崎市

岡崎市シビックセンター

〒444-0813 岡崎市羽根町字貴登野15

Tel. 0564-72-5111 猿川尚

<https://www.civic.okazaki.aichi.jp/>

クローズアップおかげ アンサンブル天下統一2022

岡崎市シビックセンターコンサートホールコロネットを拠点に活躍

する弦楽三重奏団「アンサンブル天下統一」。岡崎出身の中木健二(チェロ)、読売日本交響楽団の長原幸太(ヴァイオリン)、鈴木康浩(ヴィオラ)の3人が、「岡崎発信で音楽の素晴らしさを天下に伝える」をモットーに、毎年異なる編成とプログラムで開催しているコンサート。今回で9回目。8月には3人が講師となり、アンサンブルを学びたい弦楽経験者向けのアカデミーを開催予定。

[日程] 6月5日

[会場] 岡崎市シビックセンター

●愛知県瀬戸市

愛知県陶磁美術館

〒489-0965 瀬戸市南山口町234

Tel. 0561-84-7474 大槻倫子

<https://www.pref.aichi.jp/touji/>

酒のうつわ

—その美、こだわり—

日本人ならではのやきものの酒器文化を紹介する展覧会。名古屋の茶人・木村定三、豊橋出身の企業人・司忠、陶芸作家・辻清明のコレクションを中心に、江戸時代に発展したやきものの酒器の美しさ、豊かさ迫る。ワークショップ「土くらべのみくらべ」では、異なる土を用いてぐいのみや盃づくり、土の性質で飲み物の味わいがどう変わるのかを体験できる。

[日程] 4月9日～7月3日

[会場] 愛知県陶磁美術館

近畿

●堺市

堺 アルフォンス・ミュシャ館

〒590-0014 堺市田出井町1-2-200 バルマー・ジュ堺式番館

Tel. 072-222-5533 高原茉莉奈

<https://muchasakai-bunshin.com/>

アンニユイの小部屋 アルフォンス・ミュシャと宇野亞喜良

19世紀末にパリで活躍した画

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

家、アルフォンソ・ミュシャの代表的な装飾パネルを中心に、作品の華麗さの中に見え隠れする女性たちの物憂げな表情に注目する。同時に、イラストレーターの宇野亜喜良が1960～70年代に描いた少女のアンニュイな表現にも光を当て、両者のアンニュイな魅力に迫る。また、大阪モード学園とのコラボで、学生によるアンニュイなファッション・ヘアメイク作品も展示。

[日程] 4月9日～7月31日

[会場] 堺 アルフォンソ・ミュシャ館



アルフォンソ・ミュシャ《夏・四季(1896)》

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター
〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2

Tel. 06-6864-3901 井上周
<http://www.toyonaka-hall.jp/>

とよなかARTSワゴンフェスティバル2022 “COLORS”

2019年度より地元で活躍するアーティストとコーディネーターを育てるため立ち上げた「とよなかARTSワゴン」事業の一環で、オーディションにより選ばれたレジデントアーティスト4名と、2年間のプログラムを終了し「とよなかアーティストバンク」に登録された3名の演奏家によるコンサート。2年目の今回は、レジデントアーティストによるこの日のためだけのアンサンブルも楽しめる。

[日程] 6月4日

[会場] 豊中市立文化芸術センター

●大阪府能勢町

浄るりシアター
〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30

Tel. 072-734-3241 乾はるな
<https://www.jyoruri.jp/>

2022年6月能勢浄るり月間 能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

200年以上の歴史をもつ「能勢の浄瑠璃」に人形と囃子を加え1998年に「能勢人形浄瑠璃」がデビュー。2006年に劇団化し、地域の住民や子どもたち約60名で、監修の吉田箕助、演出の桐竹勘十郎、両人間国宝らの指導のもと活動を続けている「鹿角座」の定期公演。コロナ禍で公演活動を休止していたが、3年ぶりに開催する。本公演に先立って町立能勢ささゆり学園の児童・生徒を対象とした学校鑑賞公演も行われる(6月17日)。

[日程] 6月25日、26日

[会場] 浄るりシアター

●兵庫県宝塚市

宝塚市文化財団
〒665-0844 宝塚市武庫川町6-12

Tel. 0797-87-1136 越智淳子
<https://takarazuka-c.jp/>

懐かしの活弁ライブ 活弁映画へようこそ!「オペラの怪人」

サイレント映画『オペラの怪人』(1925年)を、関西唯一の女性活動弁士であり、「最後の活動弁士」と称された故・井上陽一から弟子として“語り”を受け継いだ大森くみこを弁士として迎えて上映。華やかなミュージカルのイメージが強い『オペラ座の怪人』に対して、ガストン・ルルー原作の怪奇小説に近い悲しきドラマを体感できる。

[日程] 6月18日

[会場] 宝塚文化創造館

●奈良県奈良市

ムジークフェストなら実行委員会
〒630-8501 奈良市登大路町30 (奈良県文化振興課内)

Tel. 0742-27-8917 樽井元昭
<https://www.naraken.com/musik/2022/>

ムジークフェストなら2022

今年で10回目を迎える音楽祭。東大寺大仏殿でのオープニングコンサートを皮切りに、ホールや社寺、まちなかのカフェなど、奈良らしいさまざまな会場で170以上のコンサートが行われる。吉野山の金峯山寺では第10回記念公演として古澤巖(ヴァイオリン)と金益研二(ピアノ)による奉納コンサートが開催される。

[日程] 5月15日～6月5日

[会場] 奈良県内文化施設、社寺、まちなか店舗ほか

中国・四国

●島根県安来市

安来市加納美術館
〒692-0623 安来市広瀬町支部345-27

Tel. 0854-36-0880 千葉潮
<https://www.art-kano.jp/>

没後45年 加納莞菴展

安来市出身の画家・加納莞菴は、戦後にフィリピン戦犯除名嘆願運動をはじめ、平和を訴えて活動したことで知られる。本展は、莞菴の没後45周年を機に画業を振り返るとともに、莞菴が行ってきた平和活動の軌跡も伝える内容となっている。従軍画家として中国に赴き制作した作品《風陵渡高地占領》(写真複製画)や、当時携行していた手帳等の資料も展示する。

[日程] 4月16日～7月10日

[会場] 安来市加納美術館

●広島県三次市

奥田元宋・小由女美術館
〒728-0023 三次市東酒屋町10453-6

Tel. 0824-65-0010 渡邊・吉川・松原
<https://www.genso-sayume.jp/>

文化勲章受章記念 奥田小由女展—元宋作品とともに

奥田小由女は、2020年に人形作家(工芸)初の文化勲章を受章した。1984年に受章した日本画家の夫・奥田元宋と共に史上初の夫妻での文化勲章受章を記念し、小由女のレリーフの大作《天翔る賛歌》、元宋の襖絵《山霊重畳》など、館初公開を含む代表作を紹介。同じ原風景の中で、それぞれの芸術表現を追求し、高めあった夫婦の足跡をたどる。

[日程] 4月29日～6月14日

[会場] 奥田元宋・小由女美術館

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075 山口市中国町7-7

Tel. 083-901-2222 竹下暁子

<https://www.ycam.jp/>

石若駿+YCAM新作パフォーマンス公演

「Echoes for unknown egos

—発現しあう響きたち」

ジャンルを越えて国内外で活躍する打楽器奏者・石若駿とYCAMとのコラボレーションによる新作公演。自身と共演するというアイデアから出発した本作では、オリジナルの打楽器や石若のパフォーマンスを学習して自律的に演奏を行う人工知能(AI)などと石若が即興のセッションを繰り広げる。初日はソロ公演、2日目はサクソ奏者・松丸契が参加。新作インスタレーションの公開など関連イベントも実施。

[日程] 6月4日、5日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

Tel. 088-668-1088 友井伸一
<https://art.bunmori.tokushima.jp>

特別展 カミのかたち Forms of KAMI

近代以降の美術作品に見られる「カミ」を探る特別展。所蔵コレクションから、日本神話やキリスト教などの宗教上で語られる「神」、時代を彩るアイドルや実在の恋人を含めた「女神」、アニミズムに通じるような自然への畏敬の念から生じる「カミ」の3テーマに沿った作品を展示し、目に見えない力が美術作品にどう表れているかを紹介する。

[日程] 4月23日～6月19日

[会場] 徳島県立近代美術館

●愛媛県久万高原町

町立久万美術館

〒791-1205 上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7

Tel. 0892-21-2881 中島小巻
<https://www.kumakogen.jp/site/museum/>

SATO Kei: a Wonder 怪物 佐藤溪

放浪の詩人、画家として知られる佐藤溪(1918～60)は1945年に復員後、二度にわたって全国各地を旅し、即興的に描いた哀切な詩情がにじむ水彩画、スケッチを遺している。本展では放浪する前に佐藤が描いた油彩



佐藤溪《大天主太神と二天使》(1953年/聴潮閣蔵)

画に注目し、中国大陸のイメージが投影されたような不思議な人物像や妖しい微笑をたたえた女性像など、放浪中の作品とは全く違う性質の作品から、知られざる佐藤の内奥に迫る。

[日程] 5月28日～9月11日

[会場] 町立久万美術館

九州・沖縄

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11

Tel. 093-663-6661 由元・小笠原・本田
<https://www.hibiki-hall.jp/>

0才からの音楽会 ～オーケストラとやみの女王～

響ホールと響ホール室内合奏団との共同企画による0才から入場できる物語仕立てのコンサート。飛ぶ劇場の泊篤志の脚本・演出で、「オーケストラとやみの女王」をテーマに冒険の旅へご招待。プログラムには、リズム遊びなど観客がストーリーの一部となってコンサートを楽しめる工夫も。乳児も安心して参加できるよう、ベビーカー置き場やおむつ替え・授乳スペースも設置。

[日程] 6月19日

[会場] 北九州市立響ホール

●熊本市

熊本県立美術館

〒860-0008 熊本市中央区二の丸2

Tel. 096-352-2111 萬納恵介
<https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/>

細川コレクション 黒の魅力

細川コレクション(細川家ゆかりの美術品や資料)を中心に、特に黒を基調とした美術品を展示。黒色を効果的に表現するために用いられたさまざまな技法に注目することで、美術における「黒」の魅力に迫る。また、蒔絵

や螺鈿をはじめ、他の色と組み合わせられた時に黒がどのような効果をもつかも紹介する。

[日程] 4月8日～6月26日

[会場] 熊本県立美術館

●熊本県宇城市

宇城市不知火美術館

〒869-0552 宇城市不知火町高良2352

Tel. 0964-32-6222 里村真理

<https://www.museum-library-uki.jp/>

リニューアル記念展

KOSUGE1-16《未完星[mikensei]》(みかんせい)

不知火美術館・図書館リニューアルオープンを記念し、生活とアートを鮮やかに結びつけるプロジェクトを各地で展開するアーティスト・KOSUGE1-16の展覧会を開催。遊べる体験型作品と公募型アートプロジェクトを組み合わせた構成で、展示室には宇城の特産品・ミカンと動物たちが盤上に選手として並ぶ巨大なテーブルサッカーゲームが出現。公募した約50点のつくりかけ(未完)のもの現物や、写真とエピソードをパネルで紹介する。

[日程] 4月3日～6月4日

[会場] 宇城市不知火美術館

●大分県佐伯市

さいき城山桜ホール

〒876-0831 佐伯市大手町2-2-28

Tel. 0972-24-2228 高橋和孝

<https://sakura-hall-saiki.com/>

ROMANTIC DUO CONCERT

～想いと憧れを調べにのせて～

クラシック音楽鑑賞の裾野を広げるべく今年度から始まったシリーズ「SAIKI MEETS CLASSIC」。3回目となる今回は、共に大分市出身の朝来桂一(ヴァイオリン)と小町美佳(ピアノ)が登場。市内の小中高生を招待するほか、演奏終了後には

「AUDIENCE MEETS ARTISTS」と題し、エントランスでワインパーティーを開催。感想を聞き合うなど、アーティストと観客が交流する機会を設ける。

[日程] 6月5日

[会場] さいき城山桜ホール

講座・シンポジウム

久留米シティプラザ ユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」

今年度「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」として独自の視点で社会を捉えた2つの演劇作品(市原佐都子/Q『妖精の問題 デラックス』、村川拓也『Pamilya』)を上演するのに合わせて、次代を担う若者層を対象に、作品鑑賞とアーティスト等との対話を組み合わせた新しいプログラムを始動。演劇ワークショップや演劇作品の鑑賞、演出家とのトークやゲストを交えた感想シェア会など対話を重視した全6回のプログラムで、アーティストとの新しい関わり方や、社会への気づきが増えていくことを目指す。

[日程] 6月5日～12月25日

[会場・問い合わせ] 久留米シティプラザ

Tel. 0942-36-3084

<https://kurumecityplaza.jp/>

夏休み子ども企画/ フェスティバル情報 求む!

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画/フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 6月3日(金)

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●神奈川県小田原市

小田原三の丸ホール (小田原市民ホール)

〒250-0012 小田原市本町1-7-50

Tel. 0465-20-4152

<https://ooo-hall.jp/>

◎2021年9月5日オープン



©株式会社エスエス 島尾 望

59年間多くの市民に親しまれ2021年7月に閉館した小田原市民会館の歴史を受け継ぎ、新しい文化・芸術拠点としてオープン。お堀端通りと国道1号線の間、小田原市の東西を繋ぐ場所に位置し、「人と人を結ぶ、小田原と世界を結ぶ」という運営理念の下、「結」の書体でシンボルマークがデザインされている。愛称の「小田原三の丸ホール」は、多くの人に親しまれる施設になるよう、城下町として栄えた小田原らしい愛称として400件を超える公募の中から選ばれた。

1階のオープンロビーは、広々とした空間で休憩や待ち合わせに利用でき、2階・3階の大ホールホワイエからは小田原城の景色を眺めることができる。大ホール内壁面は小田原産の木を使い、職人の手作業で取り付けられたタイルは異素材を合わせることで、豊かな音色を届けるように設計されている。

[オープニング事業] 野村萬斎×杉本博司 三番叟「神秘域」ほか
[施設概要] 大ホール(1,105席)、小ホール(296席)、展示室、ギャラリー回廊、スタジオ、練習室3室
[設置者] 小田原市
[管理・運営者] 小田原市
[設計者] 環境デザイン研究所(仙田満)

●大阪府枚方市

枚方市総合文化芸術センター

〒573-1191 枚方市新町2-1-60

Tel. 072-845-4910

<https://hirakata-arts.jp/>

◎2021年8月30日オープン



老朽化した枚方市市民会館大ホールの代替施設として、京阪電車枚方市駅から徒歩5分のエリアに整備。文化芸術の拠点形成や広域的な交流拠点として充実させることで、駅周辺や地域全体の魅力向上や活性化を促進することを目指す。

メイン施設の大ホール・小ホール・イベントホールは、いずれも音響効果の高いレンガを壁面に採用することで優れた響きを生み出し、演劇や音楽、伝統芸能などさまざまな公演に対応。また館内全体にもレンガと上質な木材が用いられ、温かみと重量感のあるデザインとなっている。今後は、これまで文化芸術にあまり関心なかった人々も来館するような施設となるよう、事業を推進するとともに、子どもたちが等しく文化芸術にふれる機会を創出するなど、市民の文化芸術への興味や関心を育て、裾野を拡大していくための取り組みを進める。

[オープニング事業] 大阪フィルハーモニー交響楽団特別公演ほか
[施設概要] 大ホール(1,468席)、小ホール(325席)、イベントホール(200席)、美術ギャラリー、マルチスペース1・2、リハーサル室ほか
[設置者] 枚方市
[管理・運営者] アートシティひらかた共同事業体
[設計者] (株)日建設計

●兵庫県姫路市

アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)

〒670-0836 姫路市神屋町143-2

Tel. 079-263-8082

<https://www.himeji-ccc.jp/>

◎2021年9月1日オープン



JR姫路駅から徒歩約10分のエリアに、播磨地域の文化芸術・MICE推進の拠点として開館。音楽や舞台芸術をはじめ、講演会、学会など多彩な催事に対応することで、地域の「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」「交流人口の増加」を促進する。2,010席の大ホールは、舞台までの距離を感じさせない3層バルコニー形式で、アコースティックでの演奏時は音響反射板をセット可能。車椅子席(最大48席)や多目的鑑賞室を配置しており、ユニバーサルデザインにも配慮している。演劇をはじめ多目的に利用できる中ホールや市民利用に便利な小ホール、面積4,000㎡に及ぶ大空間の展示場なども備える。今後は地域のさまざまなニーズに応えながら、MICEの拠点施設として、国際会議の誘致も進めていく。

[オープニング事業] 野村萬斎×杉本博司「神秘域」
[施設概要] 大ホール(2,010席)、中ホール(693席)、小ホール(164席)、メインスタジオ(リハーサル室)、スタジオ6室、屋内展示場(約4,000㎡)、会議室10室ほか
[設置者] 姫路市
[管理・運営者] 姫路市文化コンベンションセンター運営共同事業体
[設計者] (株)日建設計

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

東京都国立市

くにたち市民芸術小ホール くにたちオペラ 『あの町は今日もお祭り』



くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』
写真提供：くにたち文化・スポーツ振興財団

●くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』
[主催]公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団
[会期]4月30日～5月3日(全3回公演)
[会場]くにたち市民芸術小ホール
[作]多和田葉子 [作曲]平野一郎
[演出]川口智子 [振付]北村成美

● 作者・平野一郎のコメント

多和田さんのテキストはいわゆるリブレット(オペラ用台本)の形ではなく、いわば敢えて壊した台本だった。自分で自分の虚を突く、常にひっくり返していく文体が自分の音楽と響き合うと感じた。出雲をはじめ各地の土着信仰を探求してきた私は、日本列島の水底に横たわる別世界を「もうひとつの日本」として重要と捉えてきたので、多摩川の龍が金魚となって登場するこの物語は「待ってました!」というものだった。最初に多和田さんが「すべて任せます」とおっしゃるので、1幕の金魚を五人一役のマドリガールに、2幕の旅の男女を歌手/俳優の二人一役にするなど新機軸を張り巡らせた。典型的なオペラとは違う新鮮な響きを求めて音楽の根源から掘り起こし、1幕が祭囃子、2幕が文楽風、3幕が行進曲、4幕が円舞曲など多面的・多層的に展開した。特に5幕への道行は、架空の宗教音楽として川口さんに呪文を書いてもらった。異分野の作り手がここまで深く協働するのは極めて稀だと思う。風土を孕んで天空に飛び立つ龍のように、このオペラが土地に根付いてかけがえない価値をもちながら世界に広がり、これを見るために国立に来てもらえるようになれば嬉しい。

ドイツ在住の作家・多和田葉子(1960年生まれ)は、日本語とドイツ語で執筆活動を行い、芥川賞、ドイツのクライスト賞、全米図書賞(翻訳文学部門)を受賞。国境や言語やあらゆる境界を越え、独特の言語感覚で世界を描き、その著作は30以上の言語で翻訳されている。

その多和田が大学卒業時までを過ごし、原体験として大切にしているのが国立市だ。くにたち市民芸術小ホールでは2016年から「多和田葉子 複数の私」シリーズを立ち上げ、幅広い活動を紹介してきた。その集大成とも言える新作オペラ『あの町は今日もお祭り』が、コロナ禍による1年延期を経て世界初演された。2019年秋に台本が届いてから、演出の川口智子、作曲の平野一郎、振付の北村成美が舞台化に向けた話し合いをスタート。5月3日、指揮者を置かず、楽隊と声楽家・俳優、小学生から80歳代までの市民39人を含む総勢56名が挑戦した舞台取材した。

多和田のテキストは国立をモチーフに書き下ろされたもので、天満宮のお祭りにひとりで行って来たクーニーがかつてはオロチ・龍・大蛇・水蛇と呼ばれていたという金魚と出会うところから始まる。実在の地名も多く登場し、谷保をヤヤホ、多摩川をタタマ川、富士見台をフジミダイと変換しながら、5つのエピソードによる神話的パラレルワールドが展開する。

舞台奥の壇上に陣取った楽隊(打楽器5名、フルート、サクソフォン、アコーディオン、チェロ)をマリンバ・打楽器奏者の池上英樹がまとめ、8声から成る市民コーラスが複数の役をこなしながら舞台上を動き回る。見せ場のひとつが3幕。お祭りの乱れ太鼓と軍隊の行軍太鼓を重ね、「たいこ たたくた たたくた くにたち立たなくてよし…」とスケルツォ的な変拍子の行進曲を歌いながら、みんなで激しく踊り狂う。要所所で子どもたちの美しい声が響き、2時間半の大作が立ち上がっていた。

この企画がスタートした2018年から担当する斉藤かおりさんは、「川口さんのワークショップをきっかけに、多和田さんの戯曲『動物たちの

バベル』を市民劇として演出してもらった。次の企画で市民の声を拾い上げた作品をつくりたいと思っていたところ川口さんからオペラの提案をいただき、多和田さんと相談した。平野さんは出雲市で交響神楽に取り組むなど、その土地のもっている魂を吸い上げて作曲されている。それで確信をもって作曲は平野さんをお願いした」と振り返る。

台本が届いてから川口、平野が「オペラとは何か」から話し合いを始め、2020年2月には北村も参加。自身もダンサーとして出演した北村は、「音楽が立ち上がる段階から参画させていただき、人々の動きを構想できたことはとても幸せな経験だった」と話す。21年8月の市民オーディションを経て、11月から歌稽古がスタート。音楽が身体に入り切った後に始まった立ち稽古からは、「歌えない、動けないけど出たい人もいるのが社会」(川口)という考えで追加オーディションした「歌わない人」も合流し、本番直前まで細かな調整が重ねられた。

川口は、「この作品では新しい芸術を立ち上げ、音楽・踊り・言葉を自分たちの手に取り戻そうという思いで臨んだ。多和田さんのテキストから私に渡されたバトンは、舞台上で“多声社会”を実現すること。それで、その人がもつ固有の形や呼吸の仕方が複数同時に存在できる状態をつくっていった。たとえ嫌いな人がいても嫌いな人がいる状態を受け入れることを求めた。みんなの気持をつくるために、稽古の初めにはいろいろなシアターゲームを取り入れて関係性をつくりながら、創作を根幹から理解し楽しむ時間を過ごした。この土地の人々、この土地に思い入れのある人々が集まって、言葉と音楽、そして身体に向き合ってくれたことが嬉しかった」と話す。

かつて中央線の国分寺と立川の間に新駅を作る際、両方の頭文字を取って提案された「国立」という名前は、「この地から新しい国が立つ」という住民の願いを込めて受け入れられたという。理想的なチームワークの結晶として産み落とされたくにたちオペラがこの地に根づき、多くの人々に歌い継がれていくことを期待したい。(横堀応彦)